

「地図豆」の地図を広げて街歩き

64-1 横浜洋館めぐり (距離約 4km)

JR 横浜駅乗換、京浜東北線石川駅下車で、坂道を上り下りしながら外国人墓地から港の見える丘公園まで洋館を探し訪ねながら歩く。最後は、元町と横浜中華街を散策する。



【道順】

JR 石川駅→大丸谷坂→山手イタリア山庭園→プラフ 18 番館→外交官の家→カトリック山手教会→フェリス女学院→山手公園 (日本庭球発祥の地) →代官坂→元町公園・額坂→ペーリック・ホール→エリスマン邸→山手 89-6 番館 (えの木てい) →山手 234 番館→公衆電話→山手資料館→外国人墓地→横浜地方気象台→横浜市イギリス館→山手 111 番館→港の見える丘公園→フランス領事館跡→見尻坂・貝殻坂→元町→横浜中華街→横浜地下鉄日本大通り駅



プラフ 18 番館・外交官の家・カトリック山手教会



山手聖公会・山手資料館・外人墓地

パンフレットにある洋館を探しながら歩く。



 <p>21 県立神奈川近代文学館 展示した無内容で、作家や作品とじっくり向き合える場所です。</p>	 <p>16 山手資料館 明治時代に建立された木造洋館です。1977年に移築公開されました。</p>	 <p>11 交差点 この交差点を左に折れると元町ですが、まっすぐ進むと山手です。</p>	 <p>6 尾根への道 外交官の家の正面玄関前を道を通ると、この道をまっすぐ歩くと山手です。</p>
 <p>22 港の見える丘公園 1962年開園。名称は「港の見える丘公園」。</p>	 <p>17 横浜外国人墓地 19世紀から20世紀半ばにかけて40余国、4千人以上の外国人が埋葬されています。</p>	 <p>12 ベリック・ホール 1926年建築設計は米国人建築家モリス・バスターツ・シスターズの洋館です。</p>	 <p>7 山手本通り やがて丁字路に行きあたります。この標識が目印です。まっすぐ歩くと山手です。</p>
 <p>23 港の見える丘公園 ペーリック・ホールと横浜港を見下ろせます。特に夜間は横浜の美しさを堪能できます。</p>	 <p>18 横浜外国人墓地前 右の大い道は港の見える丘公園として建設設計した元町方面を下る道です。</p>	 <p>13 エリスマン邸 1926年建築設計は建築家エリスマンの邸宅です。</p>	 <p>8 山手本通り 道を左に住宅地をまっすぐ歩くと山手本通りです。美観な建物が並びます。</p>
 <p>24 フランス領事官邸跡 1947年不審火で焼失した官邸跡です。公園の北側部分にあります。</p>	 <p>19 横浜市イギリス館 1937年英国総領事館として建設設計した元町方面の洋館です。</p>	 <p>14 山手234番館 1927年外国人向共同住宅として建設洋風住宅の模範的建築物。</p>	 <p>9 カトリック山手教会 1923年関東大震災で倒壊。1933年に再建された近代洋館。</p>
 <p>25 元町入口 ゴッパル・山下を歩くと、ゴッパル・山下が現れます。</p>	 <p>20 山手111番館 1966年に建設設計はペーリック・ホールと同じJ・H・モーターズです。</p>	 <p>15 公衆電話 明治期の交番を模した電話ボックス。山手本通り沿い使用できます。</p>	 <p>4 プラフ18番館 関東大震災後に山手前に建設された洋館です。フランス風が特徴です。</p>

山手洋館散歩 おすすめコース

「コクリコ坂」からのヒロイン、海は洋風建築の家に住んでます。その雰囲気を感じるのが、石川町駅から坂を登った山手地区に点在する洋館です。そのほとんどは入場無料。ここでは、それらの洋館をじっくり見学できるコースを紹介いたします。

・「外国人遊歩道」について

横浜市中心部のパンフレットには「緑と洋館の巡り道」というのがある。

そのもとになっているのが「外国人遊歩道」で、これは江戸幕府が外国人のために整備した道である。

当時日本に住む外国人達は攘夷をとなえる浪士の襲撃を受ける危険と背中合わせだったそんな矢先、生麦事件が起こりピクニックに行ったイギリス人が命を落とし英仏両国公使は幕府に、山手一帯に遊歩道を建設するように申し入れた。

この時交わされたのが「横浜居留地覚書」（元治元年 1864）で、その内訳はミシシッピーベイを廻る長さ4マイルから5マイル、幅20フィートの馬車道を作ることであった。

その他には狭くなった墓地の拡張、食肉の処理場、疫病を防ぐ官設種痘病院、射撃場、競馬場も要求され、競馬場は今の根岸森林公園の場所にあたる。

この様にして外国人達は、居留地周辺で身の危険を心配することなく生活するすべを得た。実際の建設はトワフテ山（第20連隊が居留したことから、山手居留地115番・116番、現港の見える丘公園などをいう）に駐留する英国隊が指揮して一年で遊歩道は完成した（1866年完成）。費用は幕府が捻出してものだが、幕府としては多大な賠償金を支払い、ことによっては戦争に発展することを考えれば、安いものだったのかもしれない。

本来の遊歩道の場所は、山手下の元町を通過して地蔵坂を上がり、根岸森林公園を抜け不動坂を下り海にそって本牧を廻り本牧から千代崎町そして桜道を通り地蔵坂へ戻るルートで坂の各所には石畳が敷かれていたという。

ルートマップ

